九州運輸局メールマガジン　平成 30 年 6 月 21 日　第 386 号
～運輸と観光で九州の元気を創ります～
http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/
九州運輸局メールマガジンをご愛読くださりありがとうございます。
九州運輸局メールマガジンは隔週の木曜日（祝・祭日の場合は翌日）にお届けしています。
次回の定期発行日は平成 30 年 7 月 5 日（木）です。

■ 目 次

１　現場リポート
◆おんせん県の熱気を世界に～温泉地サミットが別府で開催～
◆株式会社名村造船所伊万里事業所を視察～海事生産性革命（i-Shipping）を推進する現場と意見交換～
◆「九州クルーズ振興協議会総会」及び「第 19 回海事振興セミナー」を開催しました

２　お知らせ
◆平成 30 年度　九州運輸局管内整備管理者選任前研修（前期）日程について
◆運輸安全マネジメント認定セミナーを開催しています

３　運輸安全推進室だより　Vol6
◆ヒヤリ・ハットを集めるために
～情報の収集にひと工夫を～

４　九州運輸局ホームページアップ情報
◆報道発表
◆お知らせ
◆更新情報

――― １　現場リポート ―――

◆おんせん県の熱気を世界に
～温泉地サミットが別府で開催～

◎日本と世界 16 ヵ国が参加した「全国温泉地サミット」、「世界温泉地サミット」が大分県別府市で開催され、九州運輸局から観光部長と観光地域振興課長が参加しました。

◇内容
・5 月 25 日に環境省主催で「全国温泉地サミット」が、5 月 26 日に大分県主催で「世界温泉地サミット」が大分県別府市で開催され、日本と世界 16 ヵ国が参加し、九州運輸局から観光部長と観光地域振興課長が参加しました。
・開催に合わせて、外国メディア（イギリス・フランス・ドイツ）を招請し、温泉サミット並びに大分・阿蘇等の「温泉・食・歴史」をメインに取材していただきました。また、九州の魅力を情報発信するべく、視察団に対して観光部長より「九州に行ってみたい！」と思っていただける
ような記事を期待する旨直接訴えました。

◇九州運輸局からのメッセージ

温泉は九州の重要な観光資源の一つであり２日間のサミットでは温泉を活かした地域の活性化について議論が行われました。九州運輸局では今後も各地域の特色を生かした地域づくりを支援するとともにその魅力の情報発信について取り組んでいきます。

◇温泉地サミットの様子は、九州運輸局メールマガジンフォトライブラリーからご覧ください。
http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_386_1.pdf
---

◆株式会社名村造船所伊万里事業所を視察
～海事生産性革命（i-Shipping）を推進する現場と意見交換～

◎加賀九州運輸局長が、平成30年6月4日、佐賀県伊万里市において、造船現場（株式会社名村造船所伊万里事業所）を視察しました。

◇内容
・本館総合事務所において、事業概要や国土交通省が海事生産性革命として、推進しているIoTやAIなどを用いた革新的造船技術の研究開発（i-Shipping Production）に関して、国から支援を受けて取り組んでいる「造船工場の見える化システムの開発基盤の構築」について説明を受けるとともに、同取組の実現に向けた今後の課題等について意見交換を行いました。
・引き続いて、記念室を視察、構内視察ではドック内建造作業などの船舶建造風景等、更に艤装中の新造船VLCC（299,633DWマラッカマックスタンカー）に乗船し、上甲板上諸設備、機関室、ブリッジ及び船内諸室等の建造状況を視察しました。

◇九州運輸局からのメッセージ
国土交通省では、海事生産性革命（i-Shipping）の一環として、造船工程における生産性向上を目的とし、IoTやAI技術等を活用した革新的な造船技術の研究開発に取り組む造船事業者等を支援しており、九州運輸局においても、引き続き海事生産性革命（i-Shipping）推進に向けて取り組んでまいります。

◇株式会社名村造船所伊万里事業所視察の様子は、九州運輸局メールマガジンフォトライブラリーからご覧ください。
http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_386_2.pdf

---

◆「九州クルーズ振興協議会総会」及び「第19回海事振興セミナー」を開催しました

◎6月11日（月）、自治体や観光関係者等で構成する九州クルーズ振興協議会（事務局・九州運輸局）は、福岡市内において「九州クルーズ振興協議会総会」を開催し、平成29年度事業・収支報告及び平成30年度事業計画・予算案を承認しました。
また、総会終了後、（公財）九州運輸振興センターとの共催による「第19回海事振興セミナー」を開催しました。

◇内容

冒頭、竹島会長から「九州へのクルーズ客船の寄港回数は、平成29年に過去最高の1,070回を記録し、日本のクルーズ人口も過去最高の24万8千人にまで増加するなど順調にクルーズというレジャーが国内に浸透しつつある状況を踏まえ、さらにクルーズ人口の拡大を図るため、引き続き各種情報発信などに積極的に取り組んでいきたい。」と挨拶がありました。
また、九州運輸局の加賀局長から「平成29年のクルーズ客船による外国人入国者数は、対前年比70.6%増の240万9千人、九州管内では19.4%増の168万6千人と大幅に増加し過去最高を記録した。また、クルーズ客船の寄港拠点となる「国際クルーズ拠点形成港湾」として佐世保港、八代港、鹿児島港の3港が指定され、今後、益々クルーズ客船の増加が期待される。協議会においても課題や取組事例を会員が共有していく取組が求められている。」と挨拶がありました。
議事終了後の情報交換では、日本クルーズ客船（株）営業部企画課の門永課長から「クルーズ会社が寄港する地域に求めるもの」、続いて国土交通省海事局外航課の矢島国際海上輸送企画官から我が国のクルーズ等の動向について報告がありました。
総会後の海事振興セミナーには約120名が出席し、講師としてお招きした大阪経済法科大学の池田良穂客員教授による「クルーズ船への対応と今後の地域戦略」と題した講演が行われました。「近年、日本のクルーズ人口の変化率は、かつての欧州における変化率に匹敵し、日本のクルーズマーケットの急拡大のきざしが見え始めている。中国発着クルーズのうち日本に寄港するものは約72%を占め、今後も中国のクルーズマーケットの成長率は年率10～15%になると予測されている。他方、日本発着クルーズにおいてもクルーズ人口は2030年に168万人に達し、2,000人定員船が17隻必要であるが、すべて外国籍船に占有されると予測されている。いま日本がやらなければならないことは、5万トン級の日本籍カジュアルクルーズ客船を実現することである。」と提言されました。

◇九州運輸局からのメッセージ
今後も九州へのクルーズ客船の寄港が増えるよう各自治体のクルーズ客船誘致活動に協力していくとともに、九州のクルーズ人口の拡大を図るため、九州クルーズ振興協議会事務局として各種情報の発信などに積極的に取り組んでいきたいと考えています。

◇「九州クルーズ振興協議会総会」及び「第19回海事振興セミナー」の様子は、九州運輸局メールマガジンフォトライブラリーからご覧ください。
http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_386_3.pdf

――― ２　お知らせ ―――――――――――――――――――――――――――――――――

◆平成30年度　九州運輸局管内整備管理者選任前研修（前期）日程について

九州運輸局では、整備管理者の資格要件として国土交通省で定める整備管理者選任前研修を実施します。なお、受講を希望される方は申し込みが必要となりますので、最寄りの運輸支局へお問い合わせ下さい。(6月15日現在での情報を掲載しています。)

◇詳細は、こちらのURLからご覧ください。
http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/osirase/00001_00126.html

◆運輸安全マネジメント認定セミナーを開催しています

認定セミナーとは、運輸安全マネジメント制度の普及・啓発を図るため、民間機関等が実施する運輸安全マネジメントセミナー等の中で一定の基準を満たし、事業者の安全管理体制の構築・強化に有効であると国土交通省が「認定」したセミナーです。
今後の認定セミナーの開催状況については以下をご覧ください。

◇全国の認定セミナー実施予定リスト（国土交通省 HP）
http://www.mlit.go.jp/unyuanzen/certif.html

◇九州の認定セミナーの実施予定は こちら （ 随時更新 ）
http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/content/000035125.pdf

――― ３ 運輸安全推進室だより ――――――――――――――――――――――

・ヒヤリ・ハット情報を集めると言ってもがなかなか集まるものではありません。
・情報が出てこない理由として､｢報告が面倒｣｢査定が下がる｣｢プライドが傷つく｣「何がヒヤリ・ハットかわからない」「ヒヤリ」「ハット」しないというものがあります。
・報告が続かない、報告数が多すぎて対応しきれない場合には「報告期間の限定」「事故事例に関連する事象」「報告者の年齢限定」など、報告のメリハリを付けるのも一考です。

◇図解入りの詳しい説明は下記をご覧ください。
http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_386_4.pdf

――― ４ 九州運輸局ホームページアップ情報 ――――――――――――――

--- **◆報道発表** ---
http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/#HOUDOU

--- ◆お知らせ ---
http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/#OSIRASE

--- ◆更新情報 ---
http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/#KOUSIN

/////// 編集部だより ///
ちょうど、編集後記を考えていたところ、大阪の地震が報道されていました。
数日前には群馬の地震、そして新燃岳や桜島の火山活動など自然現象が活発化しています。これらは、人の手では防ぎようもないことですが、普段からの備えで被害を少しでも少なくすることは可能です。ふと我が家を考えると、テレビを見ている座椅子の真後ろ頭には重い化粧箱、枕元の上にはプリンターなど、とても備えをしているとは言い難く、改めて「備え」を考えさせられた一日でした。

いつも九州運輸局メールマガジンをご覧いただき誠にありがとうございます。
編集部では、運輸と観光に関する取組や話題、イベントの案内、地域の情報等、本メールマガジンへの掲載記事を広く募集しています。お気軽にご投稿ください。
//

―――

■本メールマガジンのバックナンバー閲覧はこちらから

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/backnumber-top.htm
■本メールマガジンの配信中止やメールアドレスの変更などはこちらから
http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/kouhou_mail.html
■九州運輸局メールマガジン編集部（九州運輸局総務部内）
Mail: qst-mm-kyushu@ml.mlit.go.jp
Tel : 092-472-2312　Fax : 092-471-7192